主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名		部名	生活文化部	
	17064	観光プロモーション推進事業		課名	地域観光課 観光交流G	
	施策の大綱	03:交通拠点性を生かした都市活力の向上		財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	04:まちづくり観光の推進			款	07:商工費
	施策の方向	02:観光地の魅力づくり			項	01:商工費
戦略プロジェクト	-		目		03:観光費	
事業予定期間	H 21 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等				

② 目的・概要	対象	亀山市内外の人々
	目的	より多くの方に亀山市を知ってもらい訪れてもらうため、本市が有する観光資源の掘り起こしや魅力の向上を図るとともに、様々な機会を通じて情報発信を図る。
概要	市内への観光誘客を図るため、様々な機会を捉え地域の魅力を紹介する観光PRを中心とした観光プロモーションを展開する。	

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○PR効果の高い県内及び近隣県での観光PR ○県や北伊勢広域観光推進協議会と連携した観光PR ○地域の特色を活かした体験型講座の実施 ○各種団体等との連携による観光資源を活用したウォーキングやまち歩きイベント等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○PR効果の高い県内及び近隣県での観光PR ○県や北伊勢広域観光推進協議会と連携した観光PR ○地域の特色を活かした体験型講座の実施 ○各種団体等との連携による観光資源を活用したウォーキングやまち歩きイベント等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○PR効果の高い県内及び近隣県での観光PR ○県や北伊勢広域観光推進協議会と連携した観光PR ○地域の特色を活かした体験型講座の実施 ○各種団体等との連携による観光資源を活用したウォーキングやまち歩きイベント等の開催 	
	年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ○県内及び近隣県での観光PR ・お伊勢さん菓子博などでのチラシ配布(計3,200部) ・新名神土山SAでのパンフレット設置(1,000部/月配布) ○北伊勢広域観光推進会議との連携 ・美し国グルメフェアでのチラシ配布100部 ○観光協会により市内団体と連携したモデルツアーの開催(全2回 参加者28名) 	<ul style="list-style-type: none"> ○県外交流市イベント参加による観光PR(大阪府和泉佐野市、神奈川県大和市) ○8耐、F1等の地域ブースで観光PRの実施 ○商工会議所、観光協会との連携による大型クルーズ船誘客(横浜、四日市) ○新名神土山SAでのパンフレット設置(1,000部/月配布) ○観光協会のツアー(1回、参加者5名) ○関係機関との共同によるパンフレット作製 		
事業費	計画額	事業費	1,100千円	1,100千円	1,100千円
		国庫支出金	550千円	550千円	550千円
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	1,066千円	1,000千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費	937千円	985千円	0千円
		国庫支出金			
県支出金					
地方債					
その他					
人件費	総人件費	2,304千円	2,335千円		
	一般職員	2,304千円	2,335千円		
	所要人員	0.30	0.30		
	臨時職員等	0千円	0千円		
	総コスト(①+②)	3,241千円	3,320千円		
受益者負担率	0.0%	0.0%			

			平成29年度	平成30年度	令和元年度	
④ 指標	①	名称 観光プロモーション実施回数	計画値	9	10	10
		開催した観光プロモーション数	実績値	8	11	
			単位	回	回	回
②	名称 アンケート回収数	計画値	900	1,000	1,000	
	開催した観光プロモーションでのアンケート等回収数	実績値	101	13		
		単位	人	人	人	
③	名称 体験講座参加者数	計画値	300	300	300	
	イベントでの体験講座参加者数	実績値	28	5		
		単位	人	人	人	

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 今後の観光プロモーションは、既存の観光資源だけでは訪問客増は望めなくなっているため、新たな観光資源を開発して集客を図る必要があることから、様々な機会を通じて、新たな観光資源の発掘を図る。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 エコツーリズムの観光資源発掘の取組を検討したほか、四日市港等へ多くの大型クルーズ船が寄港する機会を捉え、商工会議所・観光協会と連携しながら誘客に取り組んだ。また、食の観光資源の発信のため、ご当地グルメの発信により市のまちおこしに取り組む市民団体との連携を模索した。市の魅力発信として、三重県観光連盟と連携したHPへの特集掲載、イメージビデオを作成したほか、市・商工会議所・観光協会で構成する観光連携会議で観光案内地図を作製した。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 県内及び県外交流市のイベントにて観光プロモーションを実施し、関宿を中心としたPRを行った。大型クルーズ船の誘客に関して、出航地である横浜港に出向き乗船前に市のPRを行った。	B まずまず実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 観光PRはすぐさま数値的効果が得られないものであるが、土山SAのパンフレットスタンドで10,000部/年の観光パンフレットを配布するなど、多くの方から市の観光資源に興味をいただいております。本市の観光の魅力発信については一定の成果を得た。また、大型クルーズ船の誘客には、横浜港で乗船時にPRを行った結果、下船後のショートバスツアーで多くの方に関宿に訪ねていただいた。特に昨年9月に津港に寄港した日本丸のショートツアーではバス7台230名の訪問があった。	B まずまず成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 今後の観光プロモーションは、既存の観光資源だけでは訪問客増は望めなくなっているため、新たな観光資源を開発して集客を図る必要がある。また、関係団体と連携し、知名度向上に向けた観光プロモーションが必要である。	今後の方向性 ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 様々な機会を通じて、新たな観光資源の発掘を図る。既存の観光地の周辺で付加価値を高める努力が必要である。具体的には、亀山7座トレイル事業を主にした、トレッキング、サイクリング等のエコツーリズムの推進に加え、フィルコミッション、食の観光資源等の開発により、市の魅力を増進する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 歴史的な建物の魅力による集客に加えて、トレッキング客、サイクリング客など、新たな訪問客の来訪が期待できる。	
対応時期		令和元年度	

【1次評価者】	生活文化部 地域観光課 観光交流グループリーダー 木田 博人
【最終評価者】	生活文化部 地域観光課長 木田 博人

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	B			
	成果	B	B			